

基礎構造の設計に関わる新技術評価に関する研究委員会 第1回全体委員会 議事録

1. 日時 : 2004年8月26日(木) 14:00 ~ 16:00
2. 場所 : 地盤工学会 A会議室
3. 出席者 : 木村、富澤、堀越、大島、大川、小松、田蔵、三浦、山下、後藤、井上、菊池、白戸、深田、磯部(京都大学D1、オブザーバー)(敬称略)
4. 欠席者 : 龍田、大塚、大谷、張、福井(敬称略)
5. 議事 :

(1) 木村委員長挨拶

当委員会は、「基礎の設計法の合理化および次世代の基礎形式に関する調査委員会」にて議論された内容を受けて、「性能評価の体系化」・「新しい基礎形式」に関する2つのWGを作り活動する。内容が幅広いため、3年間で全てを網羅するのは難しいだろうが、最後に提言を掲げるイメージで進めたい。よろしくお願ひしたい。

(2) 委員自己紹介 : 各委員の自己紹介および抱負があった。

(3) 委員会趣旨説明

白戸委員より、趣旨説明があった。: 現在、新しい基礎形式や設計法などのソフト技術については技術水準の証明を公的にサポートする手だてがない。これより本委員会では、会員の行っている新技術の研究活動を促進し現場への導入をサポートするため、地盤工学会としてどのような活動を行うべきかについて研究する。「性能評価の体系化」WGでは、たとえば地盤工学会の技術審査機関としての活動の可能性などについて検討し、「新しい基礎形式」WGでは新しい基礎形式の開発促進のために必要な基礎研究のまとめや、現行設計基準の問題点などについて検討する予定である。

各委員より新技術導入時の問題点について意見が出された。(どれだけ実験をすればいいのか、投資効果の見返りはあるのか、どこが新技術を承認するのか、責任とリスクの捉え方が海外と日本では異なる、等)

(4) 活動体制および活動内容について

「性能評価の体系化」WGの長を菊池委員にお願いし、「新しい基礎形式」WGの長を大谷委員にお願いする(委員会後、大谷委員の了解を得た)。また幹事として深田氏にお願いする。WGに分かれるのは、各委員が前委員会の内容を把握してからにしたい。

活動は、最終的にシンポジウムを開く形を考えている。H17にディスカッションセッションを開くことは考えていない。H16は準備、H17は中間報告、H18でディスカッションセッション、H19にシンポジウムのイメージである。

(5) 新しい基礎の話題提供

三菱重工業大川氏より、「ジャケット式基礎の支持特性」について話題提供があった。静的および動的遠心実験と数値解析により、直杭と斜杭の荷重分担について分析している。杭間隔を調整することで斜杭を生かせること、上部工と下部工を一体として設計することでコストダウンを図ることができる、などの知見が得られた、とのことである。

実験における杭の詳細な挙動や変形モードおよび斜杭の適用性などに関して質疑応答がなされた。実績がないことで事業者側でも採用しにくい状況がある、とのことであった。

(6) 今後の予定

H16年度 : 今後1ヶ月で各自の活動予定・WGの割り振りを行う予定。

12月・4月に全体委員会、同日にWGを開催予定。

H17年度 : 委員会・WGを各5回開催予定

以上